



発行所 香川県小豆農業改良普及センター | 〒761-4301 小豆郡小豆島町池田2519-2 TEL:0879-75-0145 FAX:0879-75-2477  
URL <http://www.pref.kagawa.lg.jp/shozu/nokai> E-mail [shozunokai@pref.kagawa.lg.jp](mailto:shozunokai@pref.kagawa.lg.jp)

シリーズ

小豆島の  
多様な担い手

## 小豆島初の集落営農法人設立 新たな担い手として地域活性化に期待

～ 小豆島町 農事組合法人 小豆島 ～



農事組合法人小豆島創立総会

農事組合法人小豆島創立総会

小豆島町安田地区において、小豆島で初の集落営農の法人として、農事組合法人小豆島（代表理事 古川安則氏）が令和3年6月10日、構成員17人により設立されました。

当地域では、昭和58年に設立した東條地域農業集団が地域農業の担い手となり、産直や収穫祭の開催など、賑わいづくりに多大な役割を果たし、平成26年度豊かなむらづくり表彰事業で農林水産大臣賞を受賞しました。しかし、構成員の高齢化や農業機械の更新、農地の維持管理の課題解決に向けて、集団と普及センターなどを交えての話し合いを重ね、「集団内の新たな担い手として法人を立ち上げてみては!」との機運が高まりました。

そこで、平成30年に構成員に対する意向調査を行い、法人への参加意志、所有農地や農業機械等の現状を把握し、令和元年6月からは定期的に座談会を開催しました。同年12月には「東條地域農業集団法人化検討委員会」とともに「発起人会」を設立し、法人の経営形態や設立から5年間のビジョンを検討し、令和2年度中の創立総会開催を目指しました。

そして、令和3年3月28日、法人設立の船出となる創立総会を開催し、代表理事の古川安則氏から、「多くの組合員と楽しい農業を進め、スマート農業に取り組みたい」との強い決意が表明されました。

今後、この法人は当集団の営農部門として位置づけ、構成員の農地を中心に地域内での作業受託や耕作放棄地の解消、オペレータの育成を目標として、水稻生産を中心に経営の安定化を図り、小豆島での集落営農法人のモデルとなることを期待しています。



管内初のドローンによる農薬散布



# 実需と生産のマッチングにより ～小豆島産原料100%ビール誕生～



「小豆島産原料100%のビールを作ろう!」と、移住者と集落営農組織を普及センターがマッチングしてスタートした“二条大麦プロジェクト”。

5年の歳月を経て、ホップから酵母まで小豆島産の、「SHODOSHIMA100」が誕生しました。

## ●マッチングの経緯

小豆島町へ移住したビール醸造家の中田雅也氏が、平成29年の開業時から目標としてきた「小豆島産原料100%のビール」づくりへの要望に対し、普及センターが土庄町伊喜末の集落営農組織「小豆島陽当の里伊喜末」に原料(二条大麦)生産のマッチングを行いました。



## ●原料生産と技術指導

主原料の「麦芽」となるビール大麦(二条大麦)の生産を、平成29年播(平成30年産)から始めました。

麦芽は高い発芽勢(麦芽にする際の発芽のそろい)が重要であることから、普及センターでは、適期播種や収穫時期などを重点的に指導した結果、令和元年に収穫した麦すべてが麦芽の原料となり、100%ビール誕生に一步近づきました。



## ●ホップ栽培の成功と酵母の発見

「東日本で栽培が盛んで、温暖な島ではムリでは?」と心配されたホップは、令和2年に中田氏から譲り受けた株が順調に生育し、増産が進みました。

一方の、ビールに欠かせない酵母も、「小豆島産」との強い熱意が実り、産業技術センター発酵食品研究所が技術支援して(株)ヤマヒサが分離した「オリーブ花酵母」が中田氏の目に留まり、小豆島産原料100%ビール誕生が目前となりました。



## ●小豆島産原料100%ビール誕生!

令和3年2月に仕込みを行い、テイストなど中田氏が追及したビールがついに完成し、6月12日、お披露目を迎えました。

お披露目会では、ビールの名称「SHODOSHIMA100」が発表され、ビール原料の麦、ホップ、水、酵母のすべてが小豆島でできたものとの意味を込めて名付けられたと説明されました。

中田氏は、「5年前にこの構想を立ち上げ、集落営農組織や関係機関の協力への感謝、また、ビール醸造の試行錯誤を繰り返す中、最後に酵母が今年2月に奇跡的に見つかった」と、感謝とともに、誕生のエピソードが語られました。

あわせて、一般販売を解禁し、「夏にごくごく飲みたくなるようなすっきりしたビール」とのことで、今、この夏、小豆島でしか味わえない「SHODOSHIMA100」を、ぜひ味わっていただきたいとの熱意が語られました。



## ●ビール増産と集団の経営発展

今後、ビール生産量の倍増を予定しており、計画的な麦類の生産拡大と安定生産により、集落営農組織の経営発展を支援するとともに、より多くの皆様に、ビールを味わっていただけるよう支援をしてまいります。

## ●マッチングの横展開

普及センターでは、この取り組み事例について広く周知するとともに、今後も管内の伝統ある食品産業と特徴ある農産物のマッチング活動、小豆島らしい商品開発を支援していきます。

## 令和3年度 農業士の認定



藤本 傳夫氏  
(キク)



畑口 欣哉氏  
(カンキツ・オリーブ)



徳本 修氏  
(酪農)

「香川県農業士」は自らが優れた農業を営むとともに、地域の社会活動に熱心に取り組んでいる方々で、市町長の推薦により、知事が認定しています。

今年度、3名が認定(再認定)され、小豆郡農業士連絡協議会は土庄町6名、小豆島町8名の合計14名で、地域農業の振興や担い手農家の育成指導等に活躍が期待されています。

## 第57回香川県花き品評会

令和3年2月27～28日にサンメッセかがわで「フラワーフェスティバルかがわ2021」のメイン行事として開催されました。

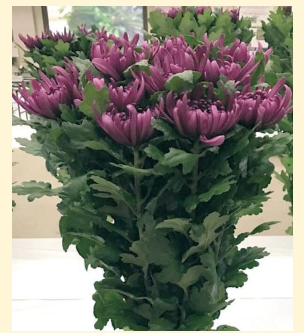
管内からは、立毛の部で4点、生産物の部で30点の出品があり、下記の4点が受賞されました。

コロナの影響でフラワーフェスティバルの行事も一部縮小して行われましたが、品評会は多くの方に観賞して頂きました。

たくさんの出品ありがとうございました。



藤本弘毅氏「イグニス」



藤本傳夫氏「美吉野」

受賞区分	品目	品種等	受賞者氏名	住所
農林水産省生産局長賞	キク(立毛)	イグニス	藤本 弘毅氏	小豆島町
香川県農政水産部長賞	キク	美吉野	藤本 傳夫氏	小豆島町
KSB瀬戸内海放送社長賞	キク	精興光玉	藤本 弘毅氏	小豆島町
読売新聞社賞	一般切花	ランンキュラス	八木 清文氏	小豆島町

## 農作業安全

田植え作業も一息ついたところですが、これからは、病害虫防除や収穫作業などで、農業機械を使用することが多くなります。特に、コンバインは、年に1回しか使用しないことから、農作業事故発生の危険性もあり、改めて農作業安全の再確認を行いましょう。

- 農作業安全に向けた「声かけ」を実施しましょう。
- 農業機械の日常的・定期的な整備・点検を行いましょう。
- コンバインなどに巻き込まれないよう、安全な服装で作業を行いましょう。

「ヒヤリ」としたり、「ハット」とした時は、「今回はたまたま事故につながらなかっただけ」であり、重大な事故につながった可能性があったと考え、次の作業からは「ヒヤリ」、「ハット」がないようにその原因や要因を取り除き、事故を起こさない農作業に取り組みましよう。



～熱中症対策も忘れずに こまめな水分補給と十分な休憩を！～